

地方でこそAI教育とAI導入の推進を

地域におけるAI人材育成は専門学校に期待

AI人材ニーズが高まる中、情報系の専門学校においても、この数年でAI学科、AIコースを設置する学校が増えている。AI推進の原動力となり、最も成果を出しているディープラーニングについて、一般社団法人日本ディープラーニング協会（以下、JDLA）理事／事務局長 岡田隆太郎氏にお話を伺った。

ディープラーニングの現状

AIは1956年からある学問で、要は人間と同じ知的な処理能力を如何にして実現するかという学問分野です。これまでもブームがありましたが、今は第3次ブームと言われています。AIにはあらゆるアプローチがある中で、ディープラーニングという技術は2012年から始まり、AIが必要とされる世の中になる原動力となったと言えます。JDLAは、AIの中で最も活用され圧倒的な成果を出しているディープラーニングを、もっと産業の中で活用していくべきだと考え、団体を設立しました。

現在、日本でも企業での技術導入が始まっていますが、アメリカや中国はこの技術をどんどん取り入れていて、日本は大きな差を付けられています。だからこそ社会への実装を急がなければいけないと考えています。

今はAIが人間の知能を超える分野が出てきています。わかりやすい例として「アルファ碁」というコンピュータ囲碁のプログラムの話は聞いたことがある先生も多いのではないのでしょうか。また、画像認識の技術は、さまざまな業界・業種で実装が進んでいます。これまでも存在していたパソコンやカメラにディープラーニングを導入することで画像を理解して識別するこ

とができるようになり、様々な分野で活用され始めています。

AI人材のニーズは

内閣府の今年のレポートによると、AI人材は50万人足りないと言われてます。有識者会議では、リカレント教育で25万人、学生の教育で25万人を育成する計画が立てられています。一つの目標になっています。また、JDLAが運営しているG検定、E資格では、合格者は3万人、受験者は4万人を超えましたが、この数字がまさに人材ニーズを表しています。大手企業では全社員がG検定合格を目指すところも出てきています。一方で、受験者の分布をみると首都圏に集中していて、地方の受験者は非常に少ないです。地方の企業に聞くと、AIは東京のものという意識があるようですが、地方でこそAIを活用して輝いてもらいたいと思っています。地方には良い企業が沢山あるので、地域のデータを活用して地域課題に取り組めば、成果を出せると思います。

専門学校へのメッセージ

IT系の専門学校が沢山ありますが、プログラミングを学ぶ学生さんにはもっと社内のシステムを担当するビジネス人材になるとよいと思います。

Sierに就職する道だけではなく、一般企業の中で活躍してもらおうと日本企業のAI導入も進むのではないのでしょうか。

専門学校はカリキュラムの作り方が早いですし、地域産業と連携されている学校も多いと聞きます。JDLAがジェネラリスト人材と呼んでいる、課題に合わせて適切な技術を選択できる人材や、技術を実装できるエンジニア人材のニーズはますます高まっています。AIは決して難しいものではなく、実装についてはライブラリ等使えるものが沢山あります。専門学校の存在意義を示すためにも、是非AI、特にディープラーニングを活用・実装できる人材の育成を全国で展開して欲しいです。



岡田隆太郎氏

2017年、ディープラーニングの産業活用促進を目的とした（一社）日本ディープラーニング協会設立に伴い、事務局長に就任。2018年より同理事兼任。

